

守れなかった海の生き物たち

私は水が大好きだ。私の一日は水でうがいをするところから始まる。食事中も水を飲むし、学校に持っていく水筒の中身だって水だ。そんな私でも唯一、水の中で嫌いなものがある。それは海だ。だが、私はきれいな海は好きだ。本当に嫌いなのは汚染された汚い海の方。私が幼稚園の頃に、初めて間近で見た海は汚染されていた。船の周りに浮かぶ大量のプラスチックに油。いつも画面の奥でキラキラと藍色に輝いていた海と同じものとは到底思えなかった。私はその光景を見て苛立ちを感じたことを今でも鮮明に覚えている。

数か月前、フイリピンで海岸に打ち上げられたクジラの胃から四十キログラムものビニール袋が出てきたという記事を見た。気になったのでこのような事故がどのくらい起きているのかを調べたところ、フイリピンの他にタイ、

生駒市立上中学校 二年

多和田 りさ

スペイン、そして日本など世界各地で似たような例が報告されていることが分かった。そこで私が疑問に思ったのは、何故海に住む生き物たちはプラスチックを食べてしまうのかということだ。そもそも何故海にプラスチックが流れてしまうのか。もちろん風に飛ばされて海に流れつく場合もあるのだが、ポイ捨てをすることで海に漂流しているケースも多い。そう、プラスチックを食べてしまう原因は、私たちが使ったプラスチックごみが大量に海に流れてしまっているから。つまりこの問題の根本は人間にあるのだ。直接的ではないとはいえ、私たちのポイ捨てなどが原因で命を落としている生き物がたくさんいるのだという事を世界中の人が知り、強く認識する必要があると思う。

そして最も大事な事は、私たちがきれいな

水を取り戻すためにできることを知り実践することだ。これから簡単に今日から実践できるものを二つ紹介する。一つ目は、水筒を持ち歩くことだ。これは文章中でも何度も出てきた、ポイ捨ての改善策である。私はポイ捨ての原因を外出先で買う飲料の多くが、使い捨てできるペットボトルだからだと考えた。そこでステンレス製などの水筒を持ち歩くことでポイ捨てを防ぐと同時に、缶やペットボトルなどの資源を消費しないという二つの点で環境問題に貢献することができると。二つ目は、食器を洗う前に皿に残った油を拭きとることだ。これは油による水質汚染の改善策である。私自身、面倒でドレッシングの残りがある皿についたままでもそのまま水で流してしまふことも多かった。しかしそれでは油が水と分離して排水管を通り、水質汚染に繋がってしまうことを知ってから油を拭きとってかき洗うようにしている。拭きとると言ってもきれいな紙でないといけない訳ではない。例えば古新聞。新聞をとっていない家庭では三角コーナーにある野菜の皮なんかも良いのだ。とにかく油を拭きとれば何でも良いのだ。

この一手間を毎日続けることで水質汚染を防げることはもちろん、そのまま洗うよりも水道代が安くなる、排水管の詰まりが防げるなど良いことばかりだ。是非この二つを実践してみてもほしい。

現在の水質汚染の原因の約七十パーセントが生活排水である。きっと私たちは私たちが水を汚していることを知っている。それでも私たちの半数以上が行動に移せていない。事態は日々深刻化している。

私のようにまだ中学生であっても水のため、地球のため、社会のためにできる事は沢山ある。私たち一人一人の努力が集まれば、きっと海に流れるプラスチックだってゼロにできる。水が何色にだって染まれるように、私たちの可能性は無敵大だから。